

## 今後のごみ減量施策のあり方について(素案)

### ごみ排出量(処理量)の現状

- 家庭系は減少傾向(市民の努力の賜物)
- 事業系は増加傾向(新幹線飯山駅開業に伴う交流人口増・大型店舗出店による経済効果と想定)
- 数値上は、長野県の目標値(1人1日当たり800グラム)まであと一歩

### ごみ減量の課題

- 一般家庭でのごみ減量は、おそらく限界(ただし、一部の若年層は、分別にとかく無頓着)
- 新幹線効果による交流人口対策
- 事業系一般廃棄物の対策(ごみのうち、何が多いのか)

### ごみ減量施策の方向性

- 1人1日当たりの排出量は、長野県の目標値を目指していく(飯山市はミニトマト約1.5個)
- 現在の分別や減量方法を、親から子へ繋げていくことが必要
- 現行のごみ減量施策を踏襲しつつ、新たにごみ減量ツールを開拓(斬新なアイデアは積極的に活用)
- 事業系一般廃棄物の組成把握に努め、構成割合が多いものに着目して取り組む
- ごみ減量ツール+ $\alpha$ として、ごみを出す方の利便性の向上を検討(資源物日曜回収の見直し、ごみ減量アプリの導入など)